

令和7年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- 1 豊かでたくましい人間性の育成
- 2 基礎・基本の定着と主体的に活用できる学力の向上
- 3 専門性を深化し、多様な支援を可能にする教育環境の構築
- 4 安心・安全で健やかな学校生活の実現
- 5 視覚障害教育の中核拠点として充実・発展

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 毎日の学習習慣を定着させ、学び続ける姿勢や意欲を引き出す授業づくりに取り組む。	A	学部問わず、意欲的に取り組んでいる児童生徒がほとんどである。「一人ひとりに合った活動をしてきている」という保護者からのコメントもいただいている。今後は、指導計画や支援計画をより活用することで、学習の見通しについても改善していきたい。	A	A
	② 新しいことにも挑戦する姿勢を大切にし、粘り強く取り組む力を高める。	A	小学部においてはオンライン交流学習やプログラミング学習、中学部においては学年をこえた対話的な道徳の学習等、様々な形態での学びを実践している。今後も机上の学習のみにとらわれず、実態に応じた様々な学習の在り方を模索していきたい。	A	A
	③ 日常生活や学びの中で課題を見つけ、考え工夫し解決する力を養う。	B	普通科における総合的な探究の時間では、生徒が自らテーマを設定し、アンケートを作成・集約する等、問題解決に向けて積極的に活動していた。考察を深めるための道筋をより効果的にするために、今後は教科との連携に力を入れていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		生徒が自ら課題を設定し、学びを深めることができるような学習支援ができるとさらによい。例えば、総合的な探究の時間において、1年ごとに完結するのではなく、3年間を通してじっくり取り組むことも考えられる。また、授業づくりでは「ソフト面（教材研究）」と「ハード面（デバイス等）」のさらなる充実を期待する。			
生徒指導	① いじめや不登校などの課題を未然に防ぎ、安心して生活できる学校環境をつくる。	A	気になる様子等は、担任のみで抱え込むことなく、生徒指導部や学部主事など関係する職員で常に、情報交換することができているため、早期の対応ができており、重大事態には至っていない。今後は、SNSの使用方法について、家庭ともより連携し、課題発生の未然防止に努めたい。	A	A
	② 学校行事や学部行事、生徒会役員活動を通して、成功体験を積み、日常や将来に向けて自ら行動できるよう指導する。	B	幼稚部から専攻科まで幅広い年齢や発達特性が異なる中、幼児児童生徒それぞれが充実した体験を積み重ねることができたと実感している。今後は、体験できたことをあらゆることに応用できるよう振り返りの時間にも重点を置き、次につなげていく。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		生徒指導において、児童生徒の特性を踏まえた個別対応が丁寧に行われてること、複数の教員で連携を密にして取り組んでいることが児童生徒の心の支えになっている。			
進路指導	① 生徒が見通しを持って進路学習に取り組めるよう、進路のしおりや進路の流れを活用する。	B	会議での情報共有や担任との日々の連携を通じて、進路のしおりを活用してきた。今後も大切な情報源である進路のしおりをさらに有効活用する取組を推進させる。具体的には、その活用方法を知らせる機会を設けることで、生徒と保護者が進路について共に考え、進学や就職の流れや手順を理解する機会を増やす。	A	A
	② 生徒が主体的に進路を決定できるよう支援する。	A	生徒一人一人の進路希望に応じて、必要な指導の実施や進路先との調整等に努めた。今後も学校や職場の見学・体験など、地域社会の資源を活用し経験と学びの機会を積み重ねながら、生徒自身の主体性や自己指導能力を高め、将来の「やりたいこと」を自ら発見し、決定できるよう支援していく。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		進路指導の効果測定が、追いかけて調査やアフターケア等でなされているのがよい。数値化できるとより向上改善につながるのではないかと。「進路のしおり」については、次年度の改善案をぜひ実現してほしい。紙媒体だけでなくデジタル化していくという案は有効であると思われる。			
安心・安全な学校生活	① 幼児児童生徒が有事の際に安全に避難できるよう、年間6回の避難訓練を実施し、経路や避難時の行動を身に付けられるようにする。	A	年間6回の避難訓練（地震2・火災2・地震火災・不審者）を実施することで、落ち着いて安全を確保しながら避難することができるようになった。現在は、新校舎に引越したこともあり、改めて防災計画を見直しているところである。	A	A
	② 幼児児童生徒が安心して新校舎での生活ができるよう各学部の実態に合わせてルートの確認等を行う。	A	環境整備委員会（歩行訓練士）が中心となり、新校舎において幼児児童生徒が安心して生活できるようファミリーゼーションを丁寧に行った。今後も実態に応じて継続した支援を行ってきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		新校舎での生活がスムーズに行えるようファミリーゼーションの動画を作成し、教員が事前に研修できるように工夫していたのが良かった。今後も継続して行い、歩行訓練士以外の教員のスキルアップを図ってほしい。災害への備えとして、非常食やタオルなどの家庭協力を含む備蓄体制を継続した方がよい。			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 教科等横断的な学習の推進	総合的な学習や総合的な探究の時間と各教科等の関連を図る。
② 「進路のしおり」の活用	「進路のしおり」の配布形態と保護者等に知らせる機会の検討をする。